

昭和32年満16才で運転免許を取りラビットから始まり色々な車にのりましたが、32才で車はやめ、飲み、打つ、買うと、仕事だけにしました。

以来車は営業のカローラの助手席かタクシーに乗るだけでしたが26年経ち、57才の時にもう買っても良い歳かなと思いい1972年製



神戸クラシックカークラブ会員の
自慢のクラシックカーが次々と登場します。
車の種類は玉石混淆ですが、自分の車に
対する思い入れは金額に関係なくお宝です。
愛人のように？

人も車も皆、 ご縁です

ベントレーMark VIホールズスペシャル 1951年製
文=稲川淳一

Essere Bambino
いつまでも
少年のように



神戸のクラシックカー

のグリーンのモーガン4／4を買いました。これが手間のかかる奴で、私は整備は全く分からないのですが、近所で整備士の江西さん、比嘉さんと鉄工所の山中社長と知り合い、山中さんの工場ですら直してもらって走ると車も面白いし、それよりも未知の方々とのご縁が出来るのが何より嬉しいことです。

第1回ボンテペルレというのがあると聞いて生まれ初めてイベントというものに出てみようと思い、洲本一泊というので宿を予約し、当日行ったら事前に申し込むとのこと。でもせっかくだからと2日間一緒に走ってたら、色んな車に会



やっと手に入れた愛車とご機嫌な私





SPEC ベントレーMark VI ホールズスペシャル

シャーシーNO.	B159LH
エンジン	直列6気筒 SUツインキャブレター
排気量	4250cc
ブレーキ	前輪油圧式 後輪ロッド式ブレーキ
ミッション	4段ミッション
全長	4340mm
全幅	1730mm
全高	1480mm

えてこれが大変楽しい。
4年前に車庫で眠ってる、このベントレーをみつけ、売ってくれと言ったら、白浜の川久の安間元社長が買って何年か整備して56年7月に車検を取ったのを、塩にやられて可哀想だからと大阪の親友の亡くなった先代が絶対売らぬ約束で買ったもので、売らぬつもりで2億の値段を付けておりましたとのこと。男の約束は分かるけどもうお二人共亡くなったのだからと約3年がかりで、昨人手しました。それもお縁で今整備をして頂いている江西さんが整備をするならという条件付きでした。山口さんのお縁で神戸クラシックカークラブに入会させて頂き、又多くの方とご縁を頂くことが出来、この車も今度のボンテベルレにご縁を頂き10数年ぶりに世に出させて頂けるのを誠に嬉しく思っております。



第30回モードメイトミチコファッションパーティー2004 3/10
「ダンスの中のルネッサンス」於／ホテルオークラ神戸〈平安の間〉



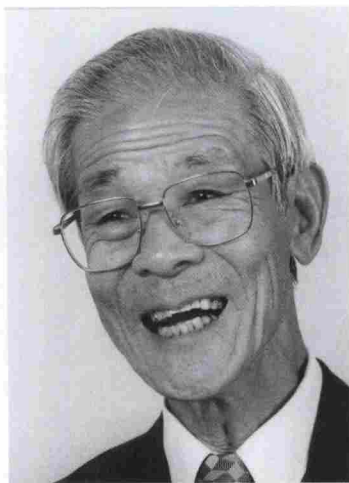
■私の意見

黄河の緑化ネットワーク 発足にあたって

地球に緑を！

林 同春

(NPO法人黄河の緑ネットワーク代表)



“地球に緑を！” “黄土高原に森林を” を合言葉に緑を愛する在日華僑、日本の市民が手を繋ぎ、砂漠地の黄土高原の緑化事業に取り組むために、「黄河の森緑化ネットワーク(KFEG)」の会を立ち上げてきました。この会の主旨にご賛同頂き、井戸敏三知事を始め多くの皆さんが会員として勇躍にご参加して下さいました。本当に嬉しい限りです。ここに改めて会員各位に深く敬意を表します。

日本は、何処にも緑の山があり、豊かな森林があります。そして、人々は春には美しい桜花、秋には鮮やかなもみじをめで、その上、優雅な句節に春の七草に加え、秋の七草の緑の中に暮らしています。

一方、大自然の環境により、地球上には砂漠地などのように緑に恵まれないところが沢山あります。その上、この半世紀の急速な工業の近代化により、地球温暖化・オゾン層の破壊・森林破壊・砂漠化など、地球をめぐる環境は極めて深刻な状況に置かれています。

現代に生きる人間として、地球環境の保全・改善は人類史的な課題であり、この時代に生きる誰もが国境を越えて、次の世代に対しても大きな責任があります。

このような状況の中で、私達の緑化ネットワークが21世紀の幕開けに発足させて今年で4年目の春を迎えます。その間3回の植樹ワーキングツアーを組みました。

第1回18名、第2回32名、第3回47名、と年々増加を続け、今年秋に出発する第4回ツアーの参加希望者が70名を越すまでになり、受入側は嬉しい悲鳴をあげています。植樹事業は近くは10年、20年、遠くは50年、100年ではじめて成果が見られる気の長い事業で、申すまでもなく植樹事業には本気、やる気、根気と共に自らが元氣であることが何より重要です。緑化事業に邁進される皆さんが益々お元氣で、“日中友好林”の会に対し、一層ご支援、ご協力賜れば嬉しく存じます。

末永く立派なボランティア活動団体として続けて行くために、2003年12月、特定非営利活動法人(NPO法人)の認証を受けました。NPO法人として社会的信用を認められたと同時に社会的責任を負う事になったことを深く自覚しないわけにはいきません。

砂漠地の黄土高原を緑化するために、苗木の購入資金を集め、又、現地で汗を流して、荒地と緑に心を込めて苗木を植える仕事を通して、平和を愛し、人間を愛し、隣人を尊び、地球を愛する心をはぐくみます。この文面をお読みになりました読者の皆さんも、私達の仲間になって頂ければ嬉しいと思います。

おわりに、“地球に緑を！”の奉仕精神で集った会員各位のご健勝を祈り、同じ目的の下に集った会員間の友好の輪が広がり、ひいては中国と日本の友好が一層深まることを祈念します。

竹中 郁 生誕百年記念シリーズ／安水稔和選／

■ ポエム・ド・コウベ

花は走る

詩 竹中 郁

画 小磯 良平



帽子の少女 昭和62年作
神戸市立小磯記念美術館蔵

すみれが済んで 木瓜ぼけが済んで

山吹 チューリップ

やがて胡蝶花 夾竹桃

わが家の小庭のつつましい祭りつづき

幼稚園友だちが誘いにきて

孫が答えながら走りでてゆく

そのにぎやかな声と足音

去年こぞ今年ことしと年々

わが右の高頬こほに太るしみ

鏡に見入るその背後うしろを

花は 花は走る

花は走りぬける

(詩集『そのほか』から)

創刊四十三周年記念復刻版名作シリーズ

れんさい随想／⑩

一九六三年五月号掲載

神戸のこと 手当り次第

淀川 長治

え・中 西 勝



だいぶ以前のことだが、シカゴに行ったとき、クラーク街の裏通りの一軒の店から竹ぎをがぬうつつき出っていて、そのさきに「金時」と書いた小旗が吊ってあった。これにはアラッと声が出た。東京では、きんときと云っても通じない、氷あづきである。思うに関西人が、はるけきシカゴにいて、邦人たちに故郷の懐しさをしるばせるため売っていたのでもあろう。

金時とくるとラムネと……私の思い出は結びつく。もはや今では映画館の場内もコカコーラかジュースとなつて、昔をしのぶよすがもないが、夏が近かづく、このラムネが映画館にはらんする。客席の間をぬって歩くおばはんはんに「ラムネエーッ」、すると汗ば

んだ手で、大きな竹かごの中のスルメやアンパンやキャラメルのぎゅしりつまった、そのはしっこに五本ばかり押しこんだラムネの一本をポンと景気よく音たてて手渡してくれる。泡が吹き出るのを攪んで、あわてて口にして「わあ、なまぬるッ」。

映画館がはねると、そのころは「螢の光」が追い出しの音楽に演奏された。そろそろ客が立ち上ると、ラムネのびんがごろごろ転ろがって、これが玉の音をたてゴロゴロチリンと足もとの邪魔をするしかしこれがなんとも云えぬ感傷となつて、ラムネと云えば初夏のそんな活動写真館の最終回あとの眠むたげな夜の風景が今も懐しい「帰ったら風呂にはいるねんで、このまま寝たら、あきまへんで」そんなとき母によくそう云われたものだった。

「新開地も、えらい変りましたわ」……昨日、私の小学校友達が東京に帰ってきてそう云った。白鰯のしるこのうまかった、あの湖月はどないなってます？「そんなん、もう、あらしまへんがな」。そんなら鈴亭は？「さあ、あそこまではよう行かなんだが、もう、おまへんやろなあ」。

新開地の入口を浜に向って左にはいると鈴亭という大衆食堂があった。ここが私のごひいきだった。家じゅうで出かけるときはキネマ倶楽部前の「奴」の天井。一人で行くときは「鈴亭」のわらじ。今で云えば百円のビーフ・カツか。それが皿からはみ出す大きさでうすくて大きくて、それでわらじと愛称したが実においしかった。

明石に、松濤館と近安しやうとうかん きんやすという魚のうまい料亭があった。近安にはすぐ目の前の道ひとつへだてた中崎公園の入り海ぎわにもう一軒の出店があつて、初夏ともなるとこの調理場から客を乗せて船が出た。

緋もうせんを敷きつめて、黒塗りのお膳に季節料理をとこせましと並べ、そのうえ重箱まで積みこんで、家族づれが乗りこむと船頭が手なれた手つきで船を押し出す。すると調理場の板の間が目の前からスーッとうしろにさがる。その屋形船が沖に出て行く楽しさ



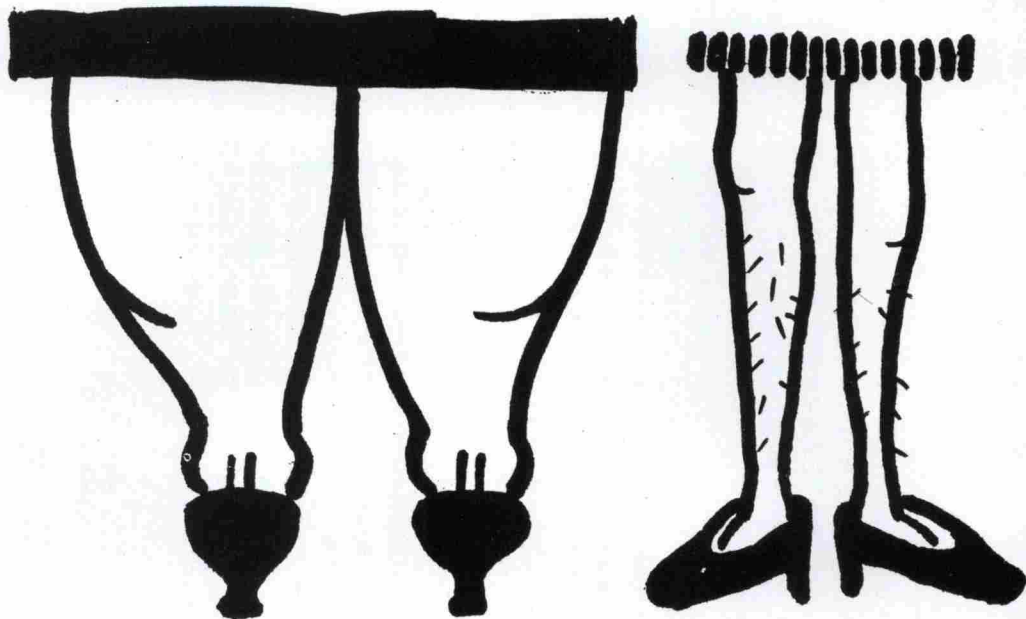
にはなんともいぬ心浮く風情がしたものである。「ぼん、あむのまっせ、じっとしてなはれ」船頭がそう云っていたから私の小学生のころであつたろう。沖に出て夕風にあたりながら「うわじまの鯛がおいしい」とか「はもの骨きりが」どうかこうとか云っているなを私はたまごの巻き焼きばかり喰べていたのだから思えば欲がない。

生田筋に「エバンタイ」商店を出していたころ、初夏になるとマヨリカの陶器をしまいこんで、夏らしくイタリヤのガラスものに店の飾りつけを涼しく変える。

ドイツのキンススト・グラスはそのコップに白い斜めのストライプが美しかった。欽のわくに大きな円形のガラスをはめこんだテーブルがあつた。そのガラスのテーブルの下に同じサイズのすりガラスのわんの形のものがついていて、これに水を入れ金魚を放すと、上のテーブルのすぐ下をひらひらと金魚が泳いで美しい。そのすりガラスの下に電燈がつくようになっていて、灯をいれると金魚が一層あざやかになって、それに上のテーブルの円形のまわりのかががカットされていて、それが下の光りを受けて虹色に光る。それでこのテーブルをレインボウ・テーブルと称したのだが、エバンタイの店の小さな奥庭にこれを持ち出して置いてみると、いかにも初夏の夜が美しかった。

同じくガラスのもので「キッス・ストロー」という妙なものがドイツから来た。ストローがガラスで出来ていて、そのガラス棒のさきに赤いほうづきの玉のようなのがついていて、これを唇にあてて吸うとキッスの感しよくがするという。けれど実はその赤いガラス玉はコップのソーダ水のソーダがこの小さな玉の中で一回転してソーダの舌ざわりのきつさをそこで柔らげるのである。しかしガラスのストローはこわれる危険もあり一度使ったものをまた洗って使うのも不衛生なことで、人気はあったがその後は注文しないまままで終ってしまった。しかし初夏というとキッス・ストローのあの赤い唇のようなガラス玉が目につくのである。

(映画評論家)



紳士入門 ⑦

How to be a gentleman

おしやれ紳士

文・竹田 洋太郎
え・鴨 居 玲

紳士はおしやれと相場がきまっているようである。しかし、いわゆる紳士なる男性を拝見しても、そのほとんどは「一見紳士風」であって、託して紳士そのもののおしやれではなかった。

それは何故か。いうまでもなく、その男性は世の流行にしたがって「高級」なおしやれをしようとする余り、紳士たらしんとすることを忘れていたのである。それなら紳士のおしやれはどうあるべきか。

一言にしていうならば、現在ただいま流行しているものを一切身につけないことである。

神戸のさる人物がニューヨークを訪れ、五番街の最高といわれるテイラーで背広をあつらえ、それを身につけてロンドンに飛んだ。空港に降り立ったとたん、自分の服装では気がひけてならないほど、ロンドンの紳士方は地味で古びた服装であった。実は、ニューヨークでも、ロンドンでも、あるいはボストンでも、新しいままのものは紳士の身につけるものではないのである。ボストン出身のケネディ大統領の背広をよく観察されるがよい。彼はいつも、ややくたびれた、ヒザ小僧の出た、身に合わないものを着ているではないか。

それでは何故、古びた洋服がいいのか。それは、いつも新しい服を着ているものは、服を多く持たないからである。背広が五十着もあれば、新しい服を買うのはバカである。貧乏人が新しい服を買うので、紳士は新たに服を作る必要はない。だから年令とともに自然に古びた服を着ているのが金持ちであり、家柄であり、紳士なのである。

かつて皇太子殿下のズボンが太いというので、若い人向きの週刊誌が問題にしたことがあった。これも紳士道をわきまえぬ人間のいうことで、皇太子殿下がフラノのズボンを一着ずつあつらえられるわけがない。おそらく半ダースや一ダースは作られるだろう。とすれば、細いズボンがはまっているからといって、すぐ細いズボンをはくのは、皇太子殿下にとって単なる不経済でしかない。こう申し上げても不敬罪にはならぬはずだ。

例をダンヒルのライターにとる。ダンヒルのガスライターは、ガソリンのライター時代と型がかわっていない。ガスライターが流行するからといって、すぐにそれらしいスタイルにするのは、ダンヒルにとって不名誉なことだ。ダンヒルのガスライターはダンヒルであることを主張しているのであって、ガスライターであることを主張しているのではない。

紳士のおしやれは、紳士であることを主張するものであって、おしやれであることを主張するのではないのである。だから、流行の服装を身につけた紳士らしき男性を見れば、直ちに紳士でないことがわかるのである。そして、その連中にいや味をいうことが紳士道の大しなみでもある。

例えは……

新しいホームスパンの上着を着た人物に会った時「いい趣味の上着だな。僕に二、三着わけてくれないか」という。相手は妙な顔をするだろう。そして「なぜ君にわ

「別冊紳士入門図解」

「続・洋太郎先生」

ダンヒルを例にとられて紳士のおしゃれの真髄を説く、誠に云い得て妙、感心致しました。さて小説家が不勉強なのか、又図にならないのか、昔の武士の昼食は殿様持ちの完全給食であったのか或は自分持参であったのか、とんとその場面を描写したのにお目にかからない。「では方々、頂きます」と云うような調子で給食を喰べる情景など想像しただけでも面白い。早速、洋太郎先生にお伺いしました所、即座に弁当各自持参とのお答え、そういえば、「ベントウ持たせりゃくいたがる」と足輕の事を云った講談のあったのを思出した。何を聞いても野球以外は知らぬ事はないと云う洋太郎先生の博学には全く驚く他はない。

所で今から六年程前だろうか、ビニール製の色々便利なものが出廻った。その中にビニールのチューブにマヨネーズを入れたものが売出されたのを皆さんは覚えておられるだろう。ハイキングなどに大へん便利なものだった。私は早速それにフランス製クリームのレストランを張り新聞社の洋太郎先生の所へ持参した。フランス語好きはいとやすきと、チラリとそのレッテルを眺めた先生は、やおら立ち上り「諸君（女性の方も居られた）此の頃の新しい化粧法を教授いたそう、即ちTの字型マッサージ也」と額から鼻にかけてべっとりと（人のだからなおの事）お塗りになられ、「かよういたすと目尻の小ジワもピタリととれる……。」とお呼びになりながら、尙も多勢の人の中でマヨネーズをお塗り続けられた……。

ああすまない事をしてしまった、と私はひとしれず胸を痛め、そしてニヤリとした事でした。

・教訓 Le pape même n'est pas infallible

レイ・カモイ

けるんだ。洋服屋なら紹介してやるよ」と答える。
そこであなたは「君がこのとして上着を半ダースもつくっても、死ぬまでに着つぶせないだろう。むすこさんにも譲るつもりかい」。こういうとますます相手は変な顔をする。こんどは「わしのオヤジは、いつも服をダースずつ作らせていた。僕は貧乏しているから（この言葉も重要である）半ダースしかつくりたくないがね。だからまだにオヤジのお古のお世話になっているよ」こういえば、一着しかつくりなかったあなたの相手は、紳士の仮面がはがれて、赤面してしまうだろう。

また、自分の着ているものが古びたものであることを

強調することは、とりもなおさず良質のものであることを強調することである。シリのはね上がつたように、短かくなって、ハラのボタンのとまらないようなモーニングで、知人の結婚式に列席することは、身に合ったモーニングよりも莊重で紳士的である。最近百貨衣装屋も各種サイズをとりそろえているから、身に合ったモーニングは借り着と考えられやすいし、あまりモーニングがよく似合うのは、芸能人かプロ野球の選手の結婚式みたいでもある。

常に流行にズレていること（決して流行を無視していることではない）これを金科玉条と心得られたい。



林 敏之（はやしとしゆき）

1960年2月8日徳島生まれ。徳島県立城北高校から同志社大学を経て神戸製鋼所へ。元ラグビー日本代表。日本代表を13年間務め、代表キャップ38。神戸製鋼の7年連続日本一にも貢献。1990年、オックスフォード大学留学中にケンブリッジ大学とのパーシティー・マッチに出場し、ブルーの称号を獲得。現在は神鋼ヒューマンクリエイトに在籍し、感性教育をテーマに活動中。

<http://www.t-hayashi.jp/>

新連載

林敏之のヒューマン対談

第3回

河島あみるさんと語る

『人間・河島英五』〈復興の詩によせて〉

林 お久しぶりです。素敵なお店ができましたね。テンテンカフェの名前は、息子さんの天夢（テン）ちゃんから来たんですよ。

河島 前のお店が焼けたときに、もうお店は止めようと思ったのですが、父の絵のあった壁だけが、焼け残ったのですよ。それをいま修復中なのですが、壁の絵が思い出だったので、母もまた続ける気になったようです。

林 法善寺横丁の「ぼうぜんじ」と言うお店でした

よね。お店には英五さんのライブの時一度行きましたがいいお店でした。特に2階のライブスペースは英五さんご自慢のスペースでしたよね。

河島 壁の絵も1点ぐらい残せればいいと思っています。父の執念ですね。店は母が中心になってやっています。父のいまの店を母が一番喜んでいますね。店ができるまでは、本当にいろいろな人が手伝ってくれました。父が亡くなって、しばらくはすごく淋しかったので



河島あみる (かわしま あみる)

1977年12月2日生まれ。中学生の頃、ボンキッキのお姉さんに憧れ劇団に入団。趣味で書いていた、旅行記がきっかけでタレント・リポーター活動を始める。2004年で10回目を迎える、阪神大震災チャリティコンサート「復興の詩」実行委員会青年の部代表。2001年に結婚。2002年9月17日に長男・天夢(てん)を出産。夫と息子、豆太郎(チワワ)、モモ(ウサギ)、コモモ(モモの娘)の六人家族。2003年冬、ならまちにTEN.TEN.CAFE(カフェ&ギャラリー)をオープン。

すが、この店になってから、父がどこかで見ているような気がするのですよ。父は、人が来てくれる空間をつくりたかったんだと思うんです。今日も林さんが来てくれたのできっとその辺まで来てするような気がするんです。

林 英五さんは神戸のラジオのディレクターに紹介していただいたんですが、本当に人間が大好きで、すごくやさしい人だと感じてました。独特の雰囲気を持って、独自の路線を歩いてましたよね。人間が大好きで、楽しみながら生きている、まさに「旅の途上」と言う雰囲気を感じ出されていたように思います。いろいろとおつき合ひさせていただきましたが、最後にお会いしたのが「ほうぜんじ」でのライブでした。ビールを飲まれてたので、お体が悪い様な感じはしませんでしたね。

河島 直接の原因は風邪からきたもので、私たちも本人も、そんなに悪くなるとは思ってなかったですね。真冬の寒い日に野外ライブをしたのですが、一

緒に出演した人がその日に入院するくらい寒かったんですよ。それでも次の野外ライブが決まっていた、無理しているうちにどんどん悪くなっていったのです。一度入院したんですが、歌を歌いたくて退院してから、亡くなる二日前までライブをしていましたからね。娘の立場として見ると、早く体を休めてほしいと思っていたのですが、歌手河島英五としてみると、まさに太くて短い幸せな人生でしたよね。

林 最後まで歌手河島英五を貫いたんですね。最後はステージでライブして倒れたんですね？

河島 そうですね。一度だけ、入院中に無理やり休ませて代わりの人にステージをやってもらったことがあるのですが、そのときはすごく落ち込んで「俺は歌えないということは、死んだのとおなじや」と言っただけ。病院でもギターを持って歌っていたぐらいですからね。父が亡くなった後でも、父が好きだった人が訪ねてきてくれて父の話をしてくれるのを喜んでいると思うし、私もとても嬉しいですね。

林 英五さんは本当にたくさんのものを残してくれたんじゃないかと思えます。歌を通じて僕達ファンにも暖かい思いを残してくれましたが、家族の皆さんにも人が集まってくる暖かい環境を残していかれたんじゃないですか。

河島 そうですね、お店が焼けてしまつて、再建しようということになったときは、本当にいろいろな人が声をかけてくれましたね。古い父の友人から、ファンの人まで、全国から見に来てくれたり

手伝ってくれたりしましたね。父のことを話題にしてくれるだけでその瞬間父が生き返るような気がするんです。お店やコンサートで、父はいないのですが、父が残してくれた音楽や仲間達が集まってくれてそれが本当に嬉しいんですよ。

林 みんな純粹にファンなんだよね。男として親父として残す物はお金とか事業とか色々あるけれど、一番大切な人の繋がりを残していかれたんですね。今でもご家族を英五さんの大きな翼が守っているような気がします。

河島 そうですね、いろいろな人が訪ねてきてくれるので、私は淋しくないんですよ。父はスポーツ選手が大好きで、林さんのことも本当に好きだったようです。林さんの結婚式に歌いに行つたときもとても嬉しそうでしたからね。

林 神戸製鋼の7連覇中には国立競技場まで応援に



来てくれました。優勝した後、毎年新宿の居酒屋で仲間を集めて飲み会をしていたのですが、そこにも来てくれて鍋をたたきながら歌って盛り上げてくれましたね。

河島 スポーツをやっている人って、少年のままじゃないですか。その中に入れることが嬉しかったみたいです。歌うという仕事は、最終的にはひとりで勝負する仕事ですから、その対局にあるチームプレーが羨ましかったのでしょ。だから父は、歌手のお友達があまり多くないんですよ。弟にもずっと「スポーツをやれ」と言っていましたね(笑)。林さんが、父の歌のなかで一番好きなのはなんですか？

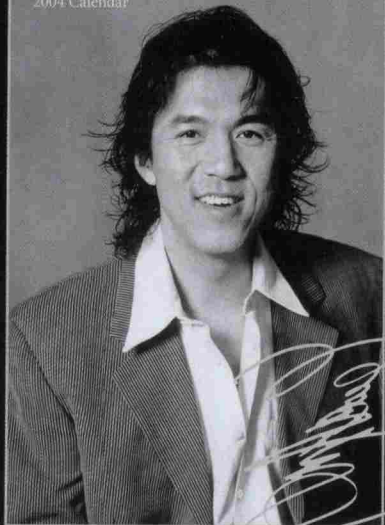
林 何だろう？「時代遅れ」かな。キーが合つてるので歌いやすいですよ(笑)。他には「生きてりゃいいさ」や「旅の途上」や「ほろ酔いで」なんかも歌いますね。「晩秋」はちょっと難しいけど。英五さんは本当に喉が強かったですよね。

河島 そうですね、一度山のなかで発声練習をしていたら、雷と間違えられたらしいんですよ(笑)。

それから父のファンにはお酒が好きな方が多いみたいなんです(笑)。実際は甘党だったのですけどね(笑)。若い頃は浴びるほど飲んでたらしいのですが、結構健康オタクで、いろいろな健康法を試していましたね。それでお酒はセーブしていたみたいですが、甘い物には目がありませんでした(笑)。大福とかひどいときにはひとりで12個も食べてましたよ。

林 英五さんのイメージは、それでも酒とか男とか

Eligo Kawashima
2004 Calendar



旅ですよ。神戸復興のために始めてくれたチャリティコンサートも今年で10回目ですよ。

河島 復興コンサートも、震災の年の4月に始めたのですが、1年で復興するわけがないから一過性でなく、10回以上やらなければやる意味がないと言って始めたんです。6回目で父は亡くなったのですが、皆で続けて今年が10回目ですね。1回目とき、私はまだ高校生だったのですよ。最初は、スタッフも全員ボランティアで考えていたみたいですね。私の友達や、音楽仲間をみんな集めていましたからね。父が亡くなるまでは、私もほとんど裏方の仕事ばかりしていました。最初のスタッフも、いまでは子供を連れて来る人もいますからね。父本人も、ギターを持って駅前でチラシ配りしていましたよ。

林 本当に人と触れ合うのが好きだったのですね。バイクで旅しながらとか歩きながらのライブとかも似合いますよね。四国八十八カ所を周りながらのラ

イブもされましたけど、ライブ会場などはしっかり押さえていたのかな？

河島 ライブ会場は決まっていましたけど、泊まるころまでは決めてなかったみたいです。私も小さかったからあまりわからなかったのですが、全部歩きながらだったので、大変だったみたいです。

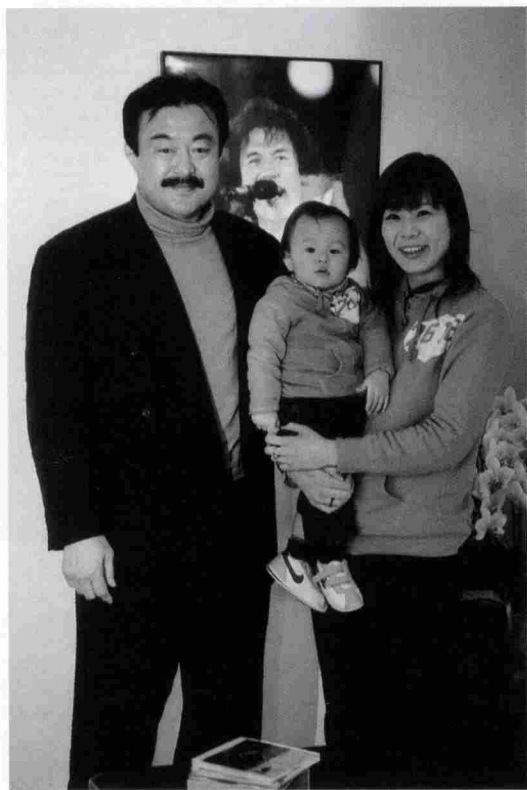
林 僕も徳島の出身なのですが、あれは自分を見つめる旅ですよ。同行二人と書いてあるのですが、「おまえの中に二人いるぞ、だから迷うぞ。八十八箇所回中で一人に戻ってゆけよ」と「途中で弘法がお供しよう」と言う二つの意味の掛け合わせなんだそうですね。歩いて周りながら、しかもライブしてるのですから、大変ですよ。

河島 私が小さいときは、父はほとんど家にいませんでした。アフガニスタンやネパールにも行っていました。だからいまでもどこかを旅しているような感覚ですね。

林 そういう生き方ができる人はなかなかいないですよ。幸せな人ですよ。

河島 父ながら、格好いい人だと思いますよ(笑)。**林** 今あるさんは旅番組なんかもしていますよね。僕の知り合いも、訪ねてくれたと大変喜んでました。

河島 そうですね、そんな仕事をやること自体も、やはり父の影響が大きいですね。小学校のときに、父の旅番組に連れていってもらったことがあるのですよ。姉妹弟それぞれ、一回ずつ連れていってもらっているのですが、その経験が私にとっては大きかったですね。普通、旅行に行っても、一般家庭でご飯を食べさせてもらったり、農作業を手伝わせてもらうことなんてあり得ないですからね。父の番組では、本当に地域に入っていけたわけです。私は人と触れ合う部分で、父に憧れていました。いまそのとき思ってたことを、できているわけなんです。妹や弟は、



かしてあげる」と言っていたようです。とりあえずどこにいても葉書は出してほしいとは、言っていたみたいですけどね。死んだときは、音信が途絶えた場所に行つて遺体を探すつもりだったようです（笑）。行くのはいいけど、最後の場所は知らせてほしいという感じで、腹はくくっていましたね。小学校からずっと一緒に、わかりあっていたのでしょね。父はミュージシャンで強そうに見えても、家のなかでは落ち込んだり、繊細

父のライブの部分に影響されたみたいですね。

私は歌の部分では、絶対に父に敵わないような気がしてしまふですよ。人と触れ合うことで、父とは違う私だけの何かが見つかればいいなあと思っています。妹たちを見て父は「ライブルや」と言っていましたけどね（笑）。姉妹弟三人それぞれ、父の影響は大きいですね。

林 ところで何度かお目にかかったことはあるのですが、以前から「英五さんの奥さんってどんな人なんだろう?」と思っていました。いつも控えめな感じですが、英五さんのような旦那さんがいて、子供たちがいるお母さんは、とても強い人のように思うのですが。

河島 母は恐妻家という意味ではなく、本当に強い人ですよ。私がお腹のなかにいるとき、父はアフガンistanにいましたからね（笑）。生きて帰ってくるかどうかかわからないようなところに行くわけですから、母は「死んでも仕方がない。行きたいなら行

な面の方が多かったですね。子供の目から見ても、浮き沈みが激しい人でしたからね。母はいつでも「英五さんなら大丈夫!」の一言で、なんでも済ませていました。私はあれほど強くはなれないですね。私たち子供は、父に会いたければ、ライブ会場まで連れてってもらわなければなりませんでしたがね。そのなかで子供3人育てるのは大変なことだと思っていますよ。私はひとりでも手一杯ですから。父は河島英五は、母がいてこそだと思っています。

林 何度かご挨拶程度にはお逢いしたことがあるのですが、それだけでは本当のところはわからないですよ。一步引いて立っている姿や雰囲気から、強い人なのだろうなあとは思っていたのですが。

河島 お店に来て母の姿を見ると、みなさん安心しますね。エプロンを付けて普通に働いていますから。「普通のおかあちゃん」という感じですから（笑）。父も母といるときが、素の自分でいたみたいですね。私が芸能界に入ったときも、芸能人と結婚しな



〒630-8337 奈良市脇戸町19
TEL&FAX 0742-26-2636

奈良町 TEN.TEN.CAFE

営業時間／11:30～21:00
定休日／毎週火曜日

- ・近鉄奈良駅より徒歩8分
- ・JR奈良駅より徒歩12分
- ・脇戸町バス停前



い方がいいと言っていました。普通の自分のことを知っている、普通のひとと一緒にいるべきだと思っていたみたいです。父は自分が苦労して成功するまでを知っているひと、ずっと一緒にいたいと思っていたようです。恥ずかしいぐらい仲がよかったですから(笑)。

林 英五さんは、派手なものに流されることが本当になかったですよ。何が本質なのかということを、常に見極めていたように思います。本当に大事なものが何かをいつも知っていたのでしょね。

河島 父はいつも自然体でしたね。そして本当に神戸が大好きだったんですよ。若い頃に、母とよくデートをしたのが神戸らしいのです。父は靴が大好きで、高架下によく靴を買いに行っていたらしいのです。

靴を買って、中華街に行くのがコースだったらしいですよ。私たちが子供の頃も、大阪でうろうろすることはあまりなくて、奈良か神戸でしたね。奈良はドライブ、神戸はやっぱり高架下と中華街でしたね。私の結婚式も神戸でした。父母の影響で、私も神戸が好きですから。それが父の亡くなる2週間前でした。夜景がすごくきれいなところで、父も喜んでくれました。神戸に行くと、懐かしい場所が多いですね。だから神戸のためににかしたいという思いは、本当に強かったですよ。

林 神戸の異人館や居留地よりも、高架下が好きというあたりが、なにか英五さんらしいですよ。

復興の詩 Vol.10 河島英五プロデュース 阪神淡路大震災復興義援チャリティー コンサート

寄付先は桃柿育英会という震災遺児たちを支援する基金。

「やるなら10年は続けたい。」とはじめた、「復興の詩」も今年で10回目を迎えます。
委員長は河島あみるさん。人から人へ…人の輪が広がり河島英五さんの理想のライブに近づくラストライブです。

4月25日(日) 神戸文化ホール

主催…復興の詩実行委員会 青年の部 (F・

J・S)・神戸文化ホール

企画…制作 SLOW TRAIN MUSIC
後援…「隠し蔵」濱田酒造

協力…松竹芸能(株)・(株)米朝事務所・(有)オフィス自由本舗・(株)いなもり・(株)協和フロ
ンティア・リンナイ(株)